

2016年度 第3四半期 決算説明資料

明豊ファシリティワークス株式会社

2017年2月6日



2016年度 第3四半期 決算サマリー



2016年度 第3四半期 決算サマリー

◆ 受注、売上状況

社内で管理する粗利益ベースでの受注高・売上高は、前年実績および期首予算を上回る

◆ 国土交通省が行う「多様な入札契約方式モデル事業」のアドバイザー業務を、当事業年度も香川県善通寺市庁舎建設事業の支援者として受託
我が国における発注支援型CM方式の普及に取り組んでいる

◆ 長野県塩尻市新体育館建設事業CM業務、東京都世田谷区の本庁舎等設計業者選定準備支援業務の受託候補者に選定される

◆ 当社ホームページの「お知らせ」にて当事業年度における「サービス・事例実績」「受賞実績」を掲載しております
<http://www.meiho.co.jp/notice/>

2016年度 第3四半期 決算概要



1 2016年度 第3四半期 決算概要 ①PL

第3四半期はピュアCM案件の増加により、前年実績と比較して、売上高は減少し、売上総利益率は増加しております。

(各項目を円単位計算後、百万円未満切捨て)

	2015年度 3Q	2016年度 3Q	前年同期比較	増減率
売上高	5,572	4,388	△1,183	△21.2%
売上総利益	1,228	1,287	59	4.8%
売上総利益率	22.0%	29.3%	-	7.3P
営業利益	418	405	(※) △13	△3.1%
経常利益	409	398	(※) △11	△2.8%
当期純利益	272	273	1	0.6%

(※)一定の業績を達成した場合に有効となるストックオプション発行費用（業績連動型賞与相当）を一般管理費で34百万円計上したことにより、前年実績を下回っております。

2 2016年度 第3四半期 決算概要 ②BS

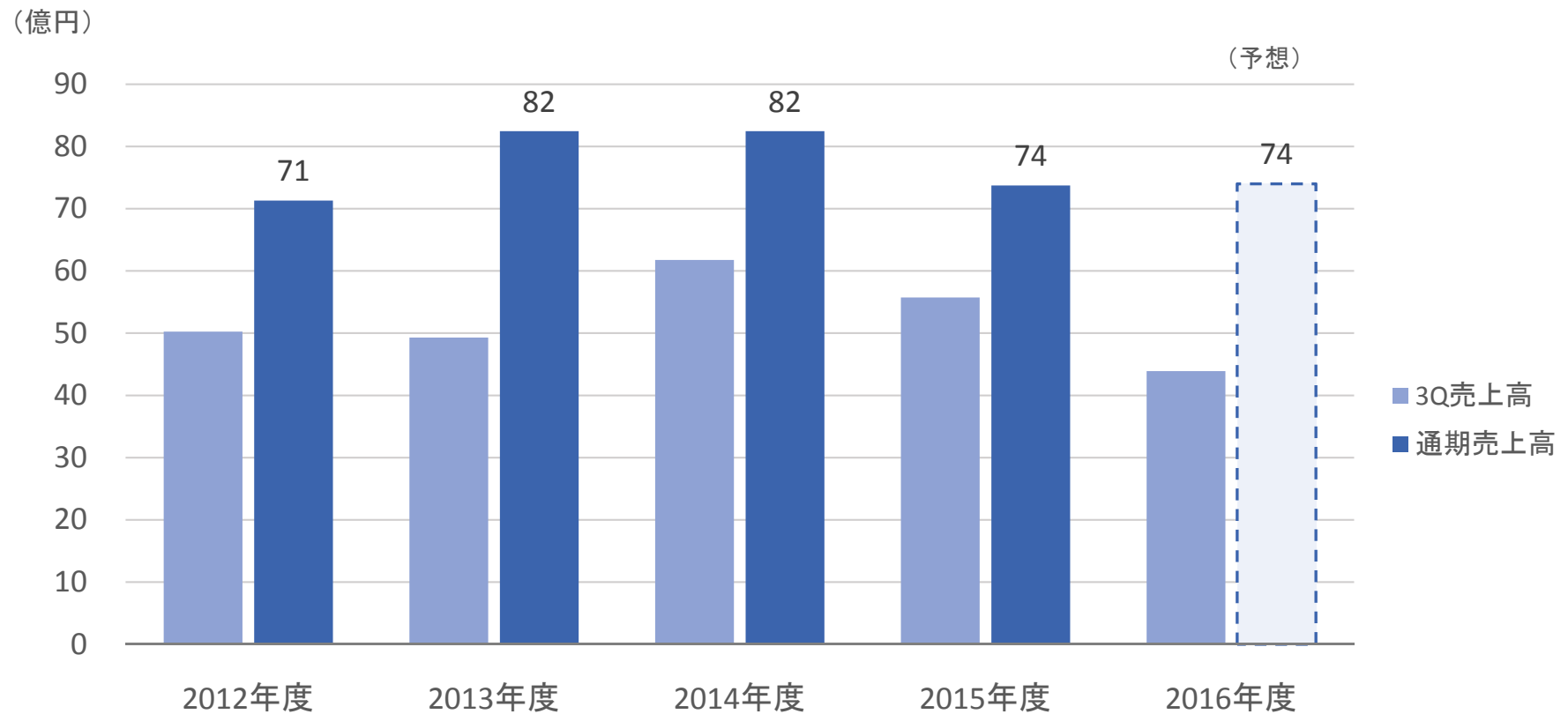
第1四半期で有利子負債の返済が終了し、無借金となっております。

(各項目を円単位計算後、百万円未満切捨て)

	2015年度 3Q	2016年度 3Q	前年度末比較	増減率
資産	5,248	4,257	△991	△18.9%
（現金及び預金）	880	1,204	324	36.9%
（売上債権）	3,800	2,542	△1,258	△33.1%
負債	2,956	1,646	△1,309	△44.3%
（仕入債務）	2,073	748	△1,324	△63.9%
（有利子負債）	32	-	△32	△100.0%
純資産	2,292	2,610	317	13.9%
（新株予約権）	15	56	41	273.1%
（自己資本）	2,277	2,554	276	12.2%

3 売上高の推移

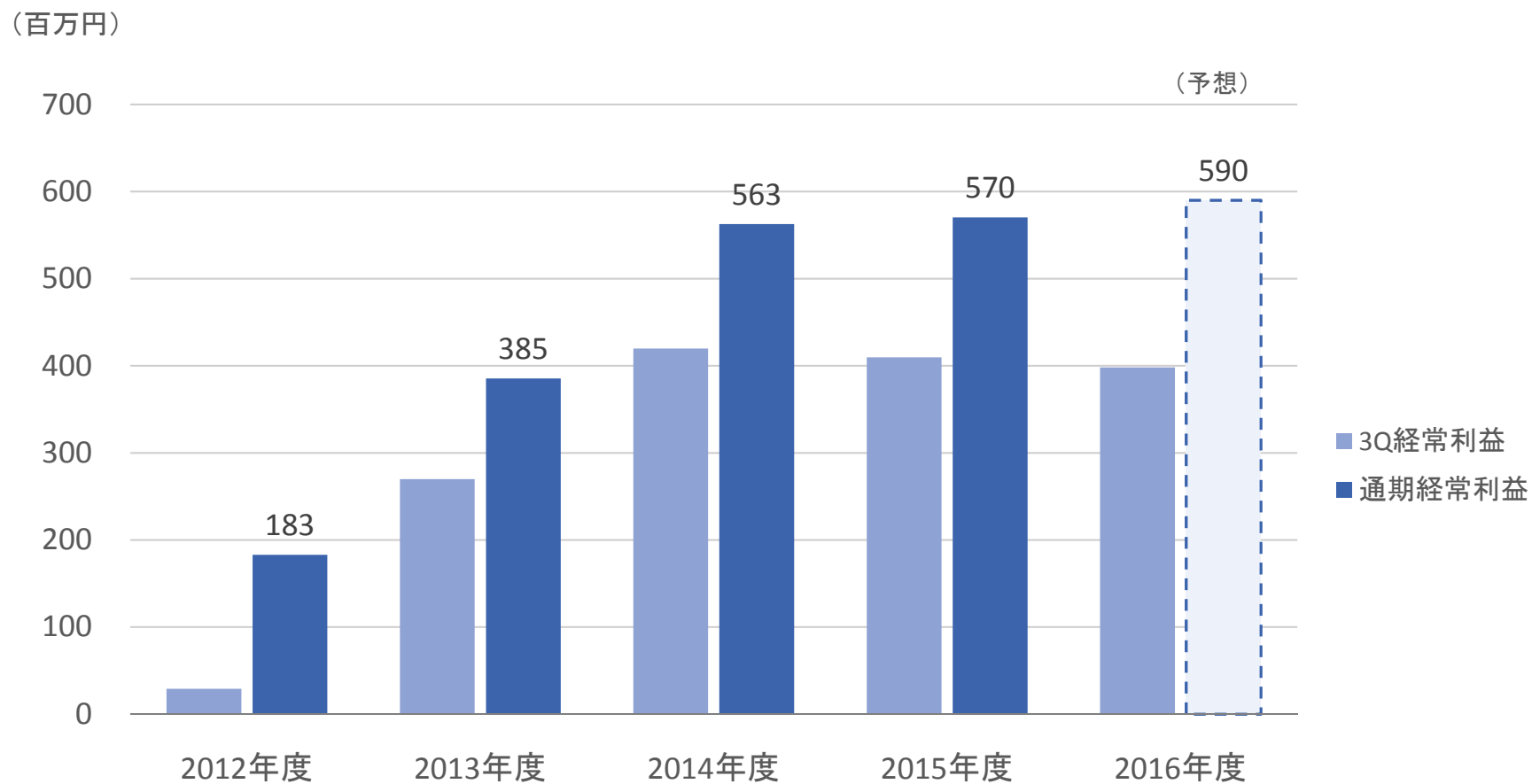
第3四半期の売上高は、ピュアCM（工事原価を含まないフィーのみの業務委託契約型CM）の案件の出来高が増加し、アットリスクCM（工事原価を含む請負契約型CM）案件の出来高が減少したため、前年同期比で減少いたしました。



(表示単位未満四捨五入)

4 経常利益の推移

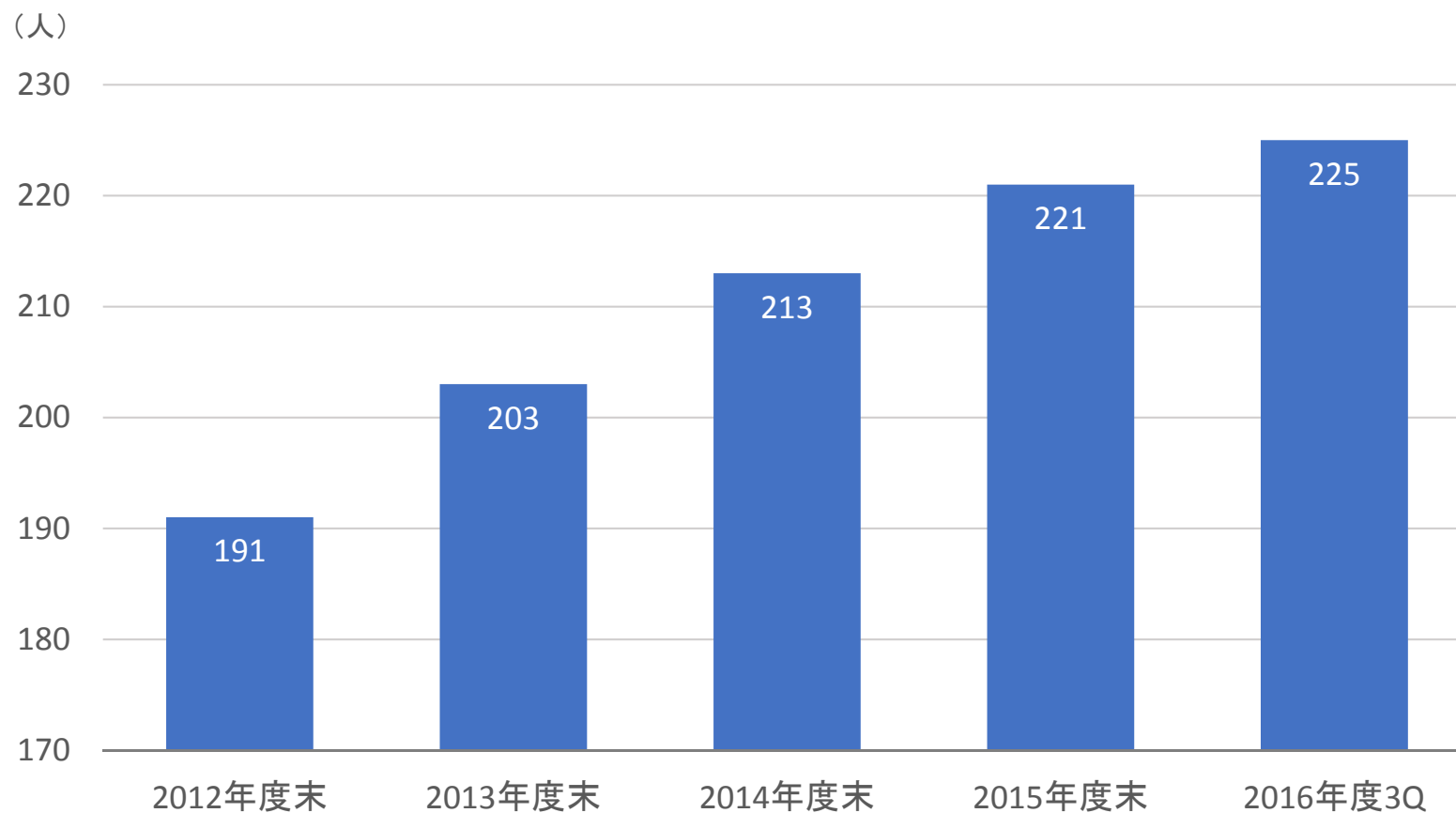
通期経常利益は、7期連続増益を目指しております。



(表示単位未満四捨五入)

5 社員数の推移

4名純増となる225名体制になっております。



(注) 役員および契約社員、派遣社員等を含む

6 売上粗利益の定義及び開示に関するポリシー

$$\text{売上粗利益} = \text{売上高} - \text{社内コスト以外の売上原価} \\ \text{(工事費、外注費等)}$$

当社の売上高は、フィーのみで構成されるピュアCM方式と、フィー＋調達原価で構成されるアットリスクCM方式とで、その金額が大きく異なります。

そのため、社内では売上粗利益〔売上高から社内コスト以外の売上原価（工事費、外注費等）を控除した金額〕にて収益の伸びを管理しております。

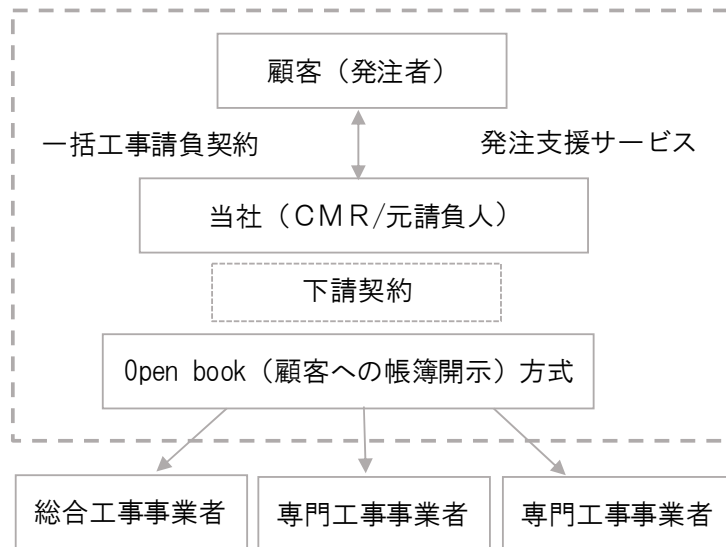
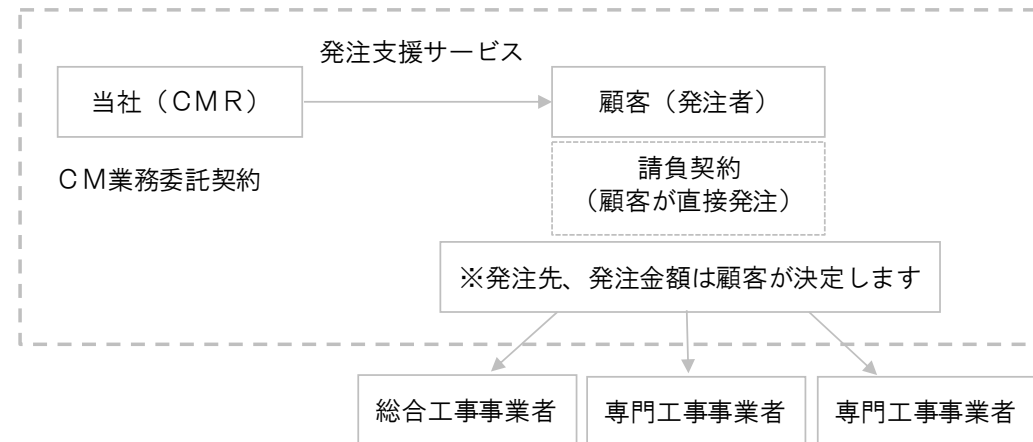
お客様との守秘義務契約を考慮し、今後もこれまで同様、売上粗利益の開示は控えさせていただきます。

7 ピュアCMとアットリスクCMについて

ピュアCM契約

顧客が施工会社各社と工事請負契約を締結し、当社は顧客とCM業務委託契約を締結する契約形態です。

当社はCM業務委託契約に基づくマネジメントフィーのみを売上計上します。



アットリスクCM契約

ピュアCM契約と同様に、当社は顧客に対してCM手法に基づくマネジメントサービスを実施します。この契約は、顧客が施工会社各社と工事請負契約を直接締結することなく、当社との間で、1本の工事請負契約を締結したいと望んだ場合に契約します。

当社は完成工事高（マネジメントフィーを含む）を売上計上し、その完成工事原価として顧客（発注者）の承認を得た下請工事原価を計上します。

2016年度 第3四半期 各セグメント状況



1 オフィス事業

- 日本国内における事業再編の動きが継続し、事業所移転など大型案件の需要が継続

－ 案件 －

-大企業における本社機能、グループ企業の統廃合、地方拠点の集約化

-先端企業による「新しい働き方」「多様な働き方」を実現する案件の増加

2 CM事業

- 民間企業からプロジェクト早期立上げ支援等、上流工程からの大型引き合い案件が増加
- 国土交通省が行う「多様な入札契約方式モデル事業」について当社が3年連続で受託
- 地方自治体及び公共機関からのCM（発注支援）方式の実績を着実に積み上げ

－ 案件 －

- 民間企業の工場・研究所等の再編や、教育施設の新築案件が増加
- 長野県塩尻市新体育館建設事業CM業務委託（その1）、東京都世田谷区の本庁舎等設計業者選定準備支援業務委託の受託候補者に選定
- 大阪府立大学学舎整備事業 7年連続受注

3 CREM事業

- 多拠点に施設を有する顧客ニーズに合わせた当社の専門性およびマネジメント能力をご評価いただき、大企業からの発展的受注につなげている

－ 案件 －

- 大企業向けを中心に、保有資産の最適化をサポート
- 大企業が多拠点施設新築・改修・移転、同時進行プロジェクトを当社独自のシステムで効率的に進捗管理
- 複数の商業施設、支店等を保有する大企業から継続して受注
- 首都圏、近畿圏の金融機関から継続して受注

2016年度 業績予想



1 2016年度 通期 業績予想

2016年10月20日に公表した業績予想からの変更はございません。

(各項目を円単位計算後、百万円未満切捨て)

	2015年度 通期	2016年度 通期	前年度比	増減率
売上高	7,372	7,400	27	0.4%
営業利益	645	630	\triangle 15	\triangle 2.3%
経常利益	570	590	19	3.5%
当期利益	374	400	25	6.9%
自己資本当期利益率 (ROE)	16.7%	16.8%	-	+0.1 P
1株当たり当期純利益	33.26円	35.39円	+2.13円	6.4%
年間配当金	10.00円	12.00円	+2.00円	20.0%



Meiho Facility Works Ltd.

Architecture, Interiors, Planning, IT, M&E Engineering, Project Management

本説明資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる場合がありますことをご了承ください。

